

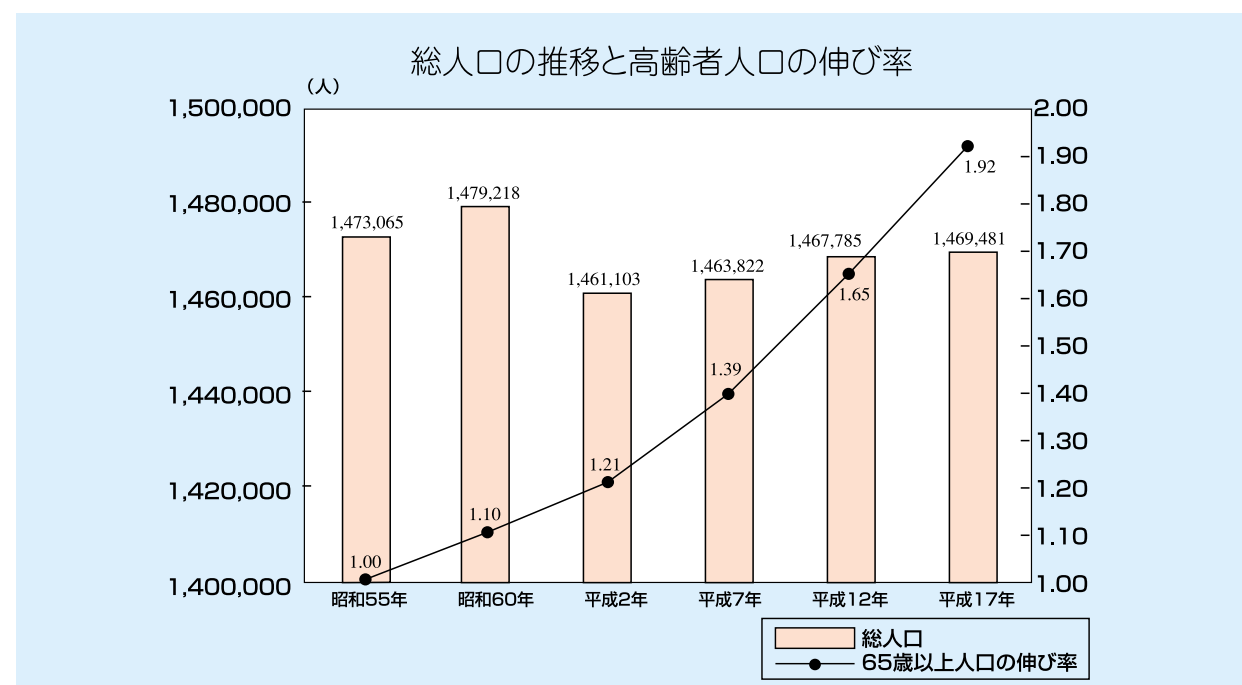
第3章 高齢者の現況及び「平成26年度の高齢者の姿」と今後の重点課題

1 高齢者の現況

(1) 人口構造

本市の人口は、昭和61年をピークに一時減少しましたが、再び増加に転じ、平成17年京都市推計人口（平成17年7月1日現在）では、1,469,481人となっています。

一方、65歳以上の高齢者人口は、死亡率の低下や平均寿命の伸長により増加し、平成17年京都市推計人口では294,675人と、昭和55年の1.92倍となっています。

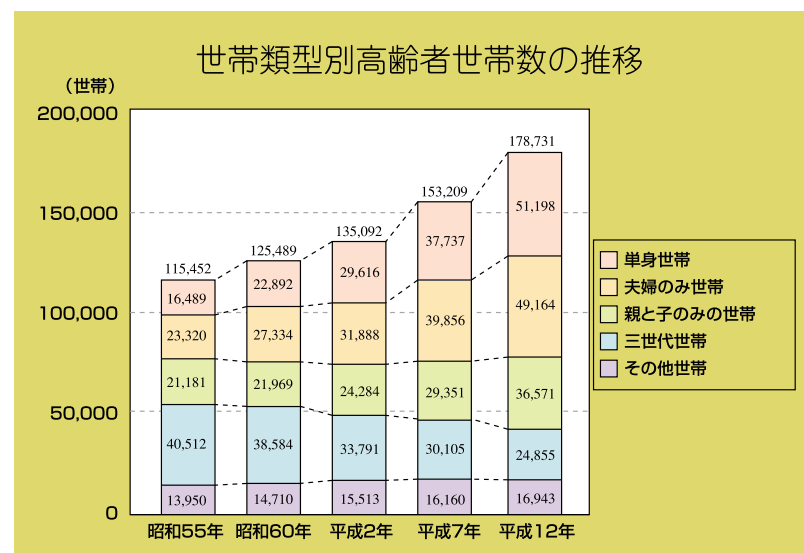


※65歳以上人口の伸び率は、昭和55年の数値を1とした場合

(2) 世帯の状況

高齢者のいる世帯は、増加し続けており、平成12年国勢調査では、178,731世帯となっています。

世帯類型別にみると、単身世帯や夫婦のみ世帯が増加する一方、三世帯世帯は減少傾向にあります。

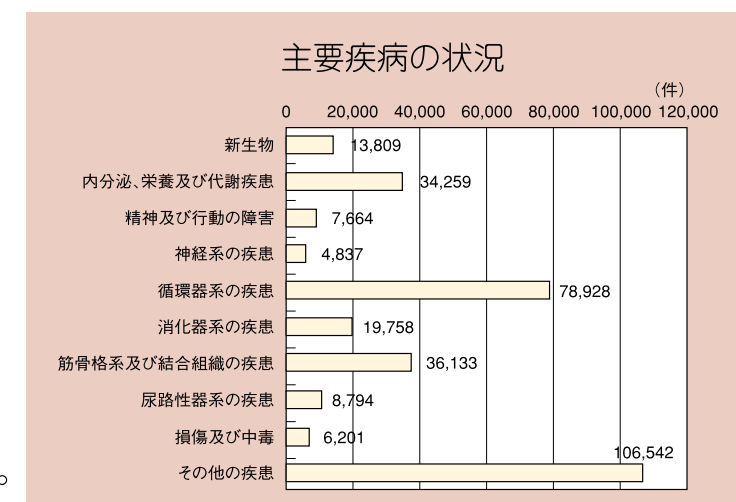


資料:「国勢調査」

(3) 高齢者の健康

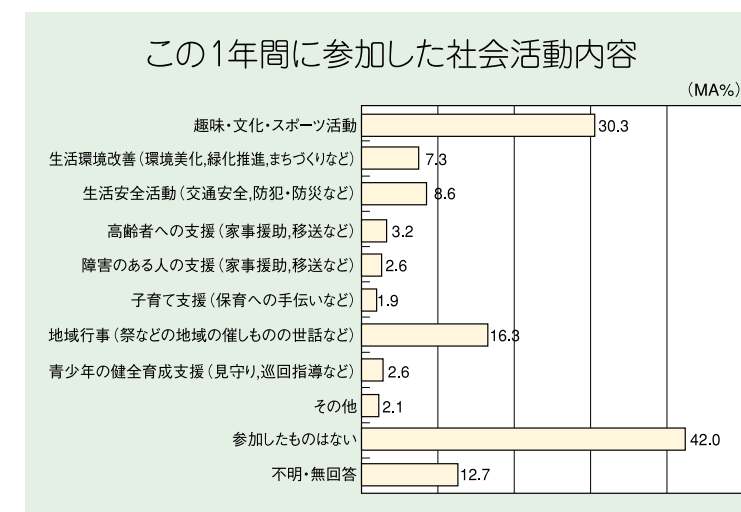
主要疾病の内訳では、心疾患や脳血管疾患など「循環器系の疾患」が、総受診件数の4分の1を占めています。

寝たきり状態となる原因は、一般的に、脳血管疾患、骨折、身体を使わない廃用症候群が多いと言われており、生活習慣の改善によって予防していく必要があります。



資料:「平成16年度京都市国民健康保険傷病統計」(平成16年6月審査分)

(4) 社会活動の状況

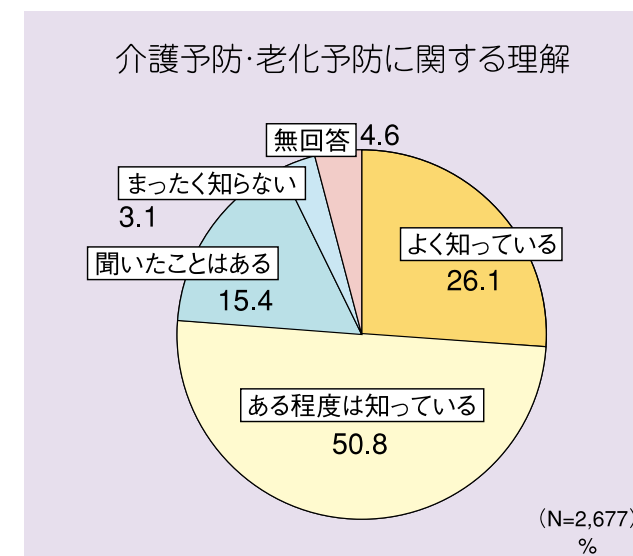


資料:「京都市高齢社会対策実態調査」(平成17年度実施)

この1年間に参加した社会活動について、「参加したものはなし」の方が約4割となっています。

社会活動を行っている団体の広報や仲間づくりのための支援策を充実させていく必要があります。

(5) 介護予防の状況



資料:「高齢者の生活と健康に関する調査」(平成16年度実施)

介護予防や老化予防について、「よく知っている」と答えた人は26.1%であり、正しい知識と適切な取組方法の普及を図っていく必要があります。